

全国から寄せられた約80のレポートを 参加者みんなで深めあう分科会

「乳児保育」「集団づくり」「あそび」など16の分科会では、全国から寄せられた約80本のレポートをもとに、保育・幼児教育そして子育ての輝きを共感しあい、これからの課題や質を深める手立てを語り合います。

今回は各分科会の運営委員から、これまでの全国保問研集会分科会のあゆみと成果、そしてこれからの課題についてのお話も予定しています。

尚、分科会の討議資料は「季刊保育問題研究248号」（新読書社）に掲載されます。

保育・子育てを深めあえる 「特別講座」があります

A 「人は人を人にする」～みんなと語る人育ち～

重度の重複障害をかかえながらも、仲間の中で多様な表現を生みだし続ける大越桂さん。その歩みを通して、「ヒトが人間になる」ことを改めて学びあいます。コーディネーターは桜井ひろ子さん（仙台保問研）です。

定員：60名

B 「ひとりで喜んでいてもしょうがないのさ、ふたりで喜び合い感じ合ってこそ幸せになれるのさ」

～ダンブ園長の遊び講座～

あの絵本「ダンブ園長をやった」（童心社）の主人公・高田敏幸さん。そのあふれるエネルギーをみんなで体感しあいましょう。動きやすい服装でご参加を。

参加の掟：エネルギー注入したい人／心も身体も丸々肥えて参加したいと思う人

C 「子どもの体と心を育む「食と農」の教育」

～給食野菜自給5割をめざす学校づくり～

子どもたちや地域の人々の輪で、高畠町立二井宿小学校の給食野菜の50%自給めざす取り組みをすすめてきた伊澤良治さん（元小学校校長）。その感動のドラマは乳幼児の「食」を大事にすることにつながります。著書「いのちを育みこころを耕せ」は平成21年度毎日農業記録賞優秀賞を受賞。

D 「「大人の闇」を子どもに引き負わせないために」

～独立学園高校から見えてくるもの～

生徒と先生たちでくらしをつくる日本一小さな高校、基督教独立学園高等学校。その教育実践の中から、思春期・青年期をみとおして「乳幼児期に大切にしたいこと」を考えあいます。講師の安積力也さん（同校長）の著書には「教育のカー『教育基本法』改定下で、なおも貫きうるもの」（岩波ブックレット）があります。

E 「私の保育・教育を支えてきた人々を語る」

～子どもたちをまるごととらえるとは？～

青春時代を山形で過ごした安部富士男さん（神奈川・安部幼稚園園長）。安部幼稚園の教育実践を生みだした安部さんが人との出あいを語りながら、これからの幼児教育のあり方を熱くお話しします。

F 「歌がつたえてくれるもの」

～心をひとつにみんなで歌おう～

合唱指導や作曲などとともに、不登校児などの居場所づくりなどの活動に取り組む武義和さん。歌をとおして子どもたちと響き合うくらしづくりを実践しています。大人同士がもっと仲良しになって笑顔あふれるとき、子どもたちが輝きます。参加者みんなで心をひとつに、歌いあいましょう。

定員：80名

G 「地域に根差し生活力を高める」

～北方性教育運動に学ぶ～

生活綴り方など北方性教育運動のなかで子どもたちが地域のくらしを見つめ、自分たちの思いを表現し、その変革の道を考えあう。その実践は、保育・幼児教育にも大きな影響を与えています。その取り組みから今何を学ぶのか…鈴木輝男さん（山形教育文化研究会議長）が熱く語ります。

H 「やってみん祭 編み編み工房」

～広島保問研にきてみんさい～

つぎの全国保問研集会は広島で開催されます。広島保問研のみなさんと一緒に、楽しいものづくりに挑戦します。材料等はすべて準備しますので、当日は体一つでご参加ください。

定員：70名、実費100円は当日徴収します。

I 「今、保育園・幼稚園の果たす役割とは」～「子ども・子育て新システム」に抗し、現場から乳幼児保育・教育のあり方を考える～

保育政策検討委員会企画です。保育園・幼稚園それぞれの現場から、乳幼児の保育・教育のあり方を実践的に発言してもらい、「子ども・子育て新システム」に抗うための、理論を学びあいます。

コーディネーターは杉山（奥野）隆一さんです。

J 「集会50周年記念プロジェクト」～あの頃の保問研～

開会集会の「保育実践をきりひらいた保問研の50年」をさらに深める講座です。全国集会の節目になるテーマについて穴戸健夫、清水民子、藤村美津、渡邊保博さんが熱く語ります。

あすからの保育、幼児教育を豊かにするメッセージがぎゅっとつまっています。